

研究会の情報ネットワーク化

■背景とねらい

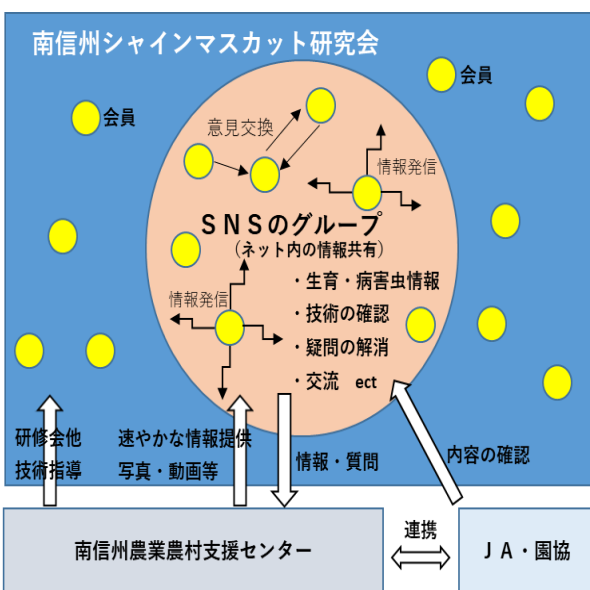
昨年度、南信州シャインマスカット研究会員にアンケート調査を実施したところ、研究会としての栽培技術講習会の開催、普及指導員による巡回指導、会員同士の情報交換の場がほしいとの要望が多かった。

このため、研究会主催で研修会等を開催すると共に、会員相互の交流を図るツールとして、SNSを活用した情報ネットワークを構築し、タイムリーな情報提供や会員同士の情報交換を促すこととした。

■本年度の取組

1 SNSによる情報共有の目的

- (1) 会員同士が気軽な交流の中で、ぶどう「シャインマスカット」の栽培上の疑問や不安を解消し、情報を共有できる場とする。
- (2) 経験の少ない新規栽培者に、生育ステージに合わせた技術情報、生育情報等を動画や写真で提供する。
- (3) 会員が発信する生産現場で困っていることや、病虫害発生状況等の疑問に対し、解決策等を速やかに伝達することで、情報の共有と技術向上につなげる。



SNSによる情報共有のイメージ

2 ネットワークの構築と加入の勧誘

最初にSNSのネットワーク加入について、ルール作りをし、数名の研究会員を勧誘し試行を行った。ネットワークの試行期間中に、情報の発信方法や、情報の裏付け、情報公開の範囲等様々な問題があることが判明し、JA等関係機関と協議する中で、改めてルールづくりを行った。会員の勧誘については、通知や巡回時の勧誘、研修会等で紹介を行った。



会員からの発信状況

■本年度の成果

SNSのネットワークにより、生育状況や技術情報、病害や生理障害等の写真、動画を配信できるようになり、農家からのぶどう生育不良等の相談に、時期を逃さず対応できた。SNSのグループ会員は28名となった。SNS内で農業農村支援センターからの情報発信を21回(動画含む)行い、会員からの情報発信が13回あった。発信者は徐々に増加している。

■今後の課題と対応

会員にとって本会が魅力的なものとなるように、タイムリーな情報発信や写真、動画での作業技術の配信、現場の課題の共有化を図る。

情報の発信方法が分からない会員が多いため、巡回時等に発信を支援する。また、次年度から取り組む小集団での課題別の研究活動の経過報告を発信するよう支援し、ネット内での意見交換が活発になるように誘導する。(地域第三係:宮澤 秀治)